



# 善正寺だより

掲示板法話

## 喜びも悲しみも分かち合い

## 日々に精一杯つとめよう

この三月、私どもの寺で三重組十三日講が勤められます。

それは、今から四百五十年以上も前、当時の石山本願寺(蓮如上人時代に、今の大阪城付近に建立)を巡る織田信長との十年戦争の殉難者追悼の法要に由来します。天下統一を狙う信長が、大阪湾の要衝にある本願寺を明け渡せとの無法な要求に抵抗して、各地の門徒たちが西国の毛利、甲斐の武田などと連携して立ち向かい、伊勢長島・願証寺攻防戦でも甚大な戦死者を出しました。十年以上の攻防戦でも決着がつかず、当時の正親町天皇の調停で和解、本願寺を明け渡し、当時の願如上人は石山を退去、紀州鷹ノ森、貝塚、天満と流転し、本能寺の変で信長亡き後、秀吉の勧めで、京都・堀川の現在地に本願寺は寺基を定められたのです。

その後、本願寺は徳川幕府の成立後、東西に分かれましたが、各地で石山戦争や伊勢長島の攻防戦の殉難者を追悼する集まりが持たれました。それが十三日講として発展し、昭和の時代には年間8回も勤まり、お寺だけでなく、

ご門徒の家でも盛大に開催されるほどで、地域挙げての法要でした。

さて、今は古い檀家制度が次第に形骸化して、新型コロナの影響も相まって仏縁が薄くなり、古くからのみ教えが中々伝わりにくい時代です。そこで本願寺では、従来からのご門徒さんだけでなく、次世代の若者たちにもみ教えが正しく伝えられていくよう願って、「新しい領解文」が制定されました。

南無阿弥陀仏

「われにまかせよ そのまま教う」の

弥陀のよび声

私の煩惱と仏のさとりは 本来一つゆえ

「そのまま教う」が 弥陀のよび声

ありがとう といいたいで

この愚身をまかせよ このまま

救い取られる 自然の浄土

仏恩報謝のお念仏

これもひとえに 宗祖親鸞聖人と法灯を伝承された 歴代宗主の

尊いお導きによるものです

### 石山合戦



〒:512-0902  
三重県四日市市  
小杉町1014  
浄土真宗  
本願寺派  
善正寺  
☎:059-331-1670  
fax:059-332-0733

### ☆行事ご案内☆

#### ◇三重組十三日講 三重組主催の大行事

3月13日(月)午前10時・午後1時

講師:葛野洋明先生(龍谷大学教授)

#### ◇春季永代経 講師:山田教尚師

3月19日(日)午後1時半 今回一日のみ

午前10時半お経開き(招待者)

#### ◇三全仏教婦人会総会 in 善正寺

3月20日(祝)午前9時※今年から時間変更

夕方5時の鐘撞、年中無休、誰でもOK ご褒美にチョコやガム進呈。合掌できる子供を育てよう

一線会テレホン法話 059・354・1454

三重組5か寺が週替わりで担当。電話3分法話

善正寺ホームページ「三重善正寺」検索 30年間

毎月発行の寺報 1年分閲覧可、15年間毎日更新

ブログ『住職と坊守のつれづれ日記』大好評!

総訪問者数 40万人突破! お悩み相談可、即返信

新納骨堂後継者の無い方墓でお困りの方相談を

法事場所でお困りの方本堂使用可、寺にご相談を



み教えを依りどころに生きる者となり  
少しずつ執られの心を離れます  
生かされていることに感謝して  
むさぼりいかりに流されず  
穏やかな顔と優しい言葉  
喜びも悲しみも分かち合い  
日々に精一杯つとめます  
(専ら門主「御消息」より抜粋)  
南無阿弥陀仏とお称えするお念仏は  
「我にまかせよ、そのまま教う」の弥陀  
如来のよび声、とは誠に簡潔、適切な  
お導きですね。命がけで本願念仏のみ  
教えを護り伝えて下さった先人たちの  
願いを聞きつつ、法縁にお参り下さい。

### ☆ 写真アラカルト ☆



三重組代表本山参拝(左:御影堂前、右:参拝教化部にて)



孫登校のお見送り、でも  
お報で途中引き返す

15孫と雪だるま作

### ほうり 坊守スケッチ

## 違う宗教でも同じ墓に入れますか？

先日見知らぬ女性から身の上相談を受けました。「数年前に夫婦仲が悪くなり、友達に誘われてキリスト教の教会に通い始めました。しかし夫は定年後優しくなり、『お前と一緒にのお墓に入りたい』と仲直り。夫の家は仏教。私は洗礼を受けていませんが、宗教が違っても同じお墓に入ってもいいですか？抑々仏教はどんな教えなのですか？」と尋ねられました。

坊守暦49年の私の宗教心を問われる鋭い質問に驚きました。更には、「キリストも釈迦も2千年以上前に実在した人物ですが、どこが違いますか？仏教のお釈迦様と阿弥陀様の違いは何ですか？」こんな質問で狼狽していたら僧侶資格の値打ちがないと、今までお説教で聞いた話をしました。仏教はその名の如く私が「仏になる教え」です。だからあなたの「両親や祖父母やご先祖が仏様になられて、あなたを見守って下さるのです。夜空に輝く無数の星と同じです。死んでから仏になるのではありません。生きています。間に、お釈迦様が説かれた仏になるための教え(因果応報)を聞いて仏になる道を歩ませて頂くのです。毎日阿弥陀仏の前に座ってお参りするのは、自分の生き方が仏様の願いに叶うかを反省するためです。想像上の阿弥陀仏



と実在したお釈迦様の違いは師匠と弟子のような関係です。お釈迦様は全ての生きとし生けるものは平等で救われ、迷いから目覚めて悟りを開くと言われました。キリストは全知全能の創造主で、神を信じない異端者は裁きを受けると言われました。

彼女の「夫と同じ墓に入れるか？」という質問には、「浄土真宗では『倶会一処』(くえいっしょ)という言葉があります。お互いの違いを認め許し合ってお浄土で再び出会い、仏となつて、後に続く人々を導くという意味です」

「ああ、それならば安心です。私も老後は主人との仲を取り戻そうと悩んでいたところですよ」と、明るい表情に変わられました。皆様も何でも自由にお寺に相談して心を軽くして下さい。

### お悔み申し上げます

- ★小林千里様(1月28日往生・96歳・みゆきが丘) 合掌
- ★館美重子様(1月30日往生・92歳・小杉) 合掌
- ★小林英様(2月5日往生・99歳・みゆきが丘) 合掌

### カンパありがとうございます

服部照子様、山中ツヤ子様、他匿名様

### 若坊守の子育て日記No.98

一月下旬の大雪には本当に驚きました。起床時には見渡す限り真っ白！大雪警報が七時半過ぎに出されたので、既に小学校へ出発した子供達を追いかけ引き留めに走りました。

午後には止むという予報もはずれ、夕方までどんどん降り積もりました。臨時休校の子ども達は外で遊びたがりです。雪が小降りの時に外に出てみると、20cmほどの積雪。子供達は祖父母も呼んで雪だるまを作り始め、大変個性的なものが完成しました。

翌日、各家の玄関先に雪だるまが鎮座しているのは面白い光景です。近所の公園にはカマクラを作ろうとして失敗したような雪の塊がありました。

子供達は近年稀に見る大雪に大喜びでしたが、大人たちは車の運転に苦勞しました。特に新名神高速道路は丸一日ストップして、TVニュースで四日市の名前が一躍全国版になりました。この時スリップ事故が多発したのも、三重県民には稀な大雪だったことの証明です。我が家の長女も、路面凍結で登校中に尻もちをつきました。

今回発出された「大雪警報」は、札幌市ではその基準が三重県のお四倍だそうです。雪は大自然の厳しさの象徴。凍える寒さを耐え忍び、春はまだかしらと待ち望む今日この頃です。



### 俳壇

参道や出店も多く松七日 釋妙水  
 大寒や園児らの声青空へ  
 言葉のむ恩師の計報初電話  
 凛として卒寿の友や寒椿 釋楽邦  
 蒼空に冬芽こぞりて天を指す  
 無垢の白広がる世界今朝の雪  
 水馬六本の足光の輪 釋住安  
 大寒や顔を叩いて洗いけり  
 時計台手をかざしてみる春の風  
 青空に吸い込まれゆく軒氷柱 釋普教  
 朝日さす軒のつららの十四五本  
 冬の朝灯油の缶を担ぎけり 釋秀龍  
 耳元をかすめて痛し北風よ  
 小春日や小石けりつつ帰る子ら  
 大寒や骨の髄まで凍えけり 釋清風  
 風吹けど唯さらさらと枯芒  
 休校の子ら雪達磨に興じけり

### ★ 編集子より ★

「善正寺だより」352号をお届けします。◇一月下旬の大雪にはびっくり。大雪もさることながら、最低気温が氷点下8・9度、これは初体験の厳寒でした。車の運転は当然無理で、法務など日程変更したほどでした。◇トルコ、シリアの大地震は、東日本大震災を超える3万人以上の死者。寒さの中で救出を待つ人々の惨状。義援金は出しましたが、共々支援の継続が大切と痛感させられる。◇3月は十三日講、春季永代経と法要続きます。新型コロナウイルスの感染も下降線。どうぞ皆さん、聴聞の二縁を大切に願います。◇「新領解文」よく味わい親しみましょう。合掌。

梅もほころび春めいて参りました。三月は善正寺にとって行事  
満載。13日(月)には三重組十日講、三重組主催の大きな  
行事です。19日(日)午後は春季永代経(今回は一日だけ)  
20日午前9時三全仏婦總會と続きますが、よろしくご協力  
下さいます。さて皆さんは「あと何年生きられるだろうか」と  
尋ねられたら「人生引き算派ですか?それとも「人生足し算派  
ですか?、高齢者の大半は平均寿命が近づくと引き算派が  
多いと思います。生前整理や葬儀の心配をするのもその証拠  
です。またがん告知で余命宣告を受けた人も引き算派  
が多いと思います。ところで海南病院の大橋洋平医師(59  
は4年半前に大量下血してガンと診断されました。百キロ以上  
あった体重が40キロも減少。抗ガン剤の副作用で食事が摂  
れず苦しみました。余命半年と宣告された医師が家族の  
励ましと気力で4年半生き延びています。医師は「一人で悩む  
より誰かに聞いてもらうこと、変えられない事と諦めなくて  
い事を見極めれば楽になれる」と気づきました。それ以来「  
人生は引き算ではなく足し算で生きよ」と悟りました。ある  
90代の人の中には「今日もおかげさまで無事目覚めました。  
ああ有難いなあ。目も見え手も動くこの身このまま」と毎朝  
合掌する人もいます。私達も平凡な一日でも、今日一日生か  
された喜びをかみしめ、幸せが当たり前ではなく、感謝  
の気持ちに代えて生きていきたいと思ひます。三重組十  
三日講、春季永代経、三全仏婦總會、皆様のご参詣を  
お待ち申しあげます。合掌

令和五年三月

善正寺坊守拝